

制 服 雑 感

谷 裕 之

(札幌市消防局長)

4月1日付、消防長を拝命し晴れて、制服を着用する身になった。気恥ずかしいような一種の違和感が残るのは、若さのせいかな？ いや私がまだ職責の重さを十分に自覚していないせいだと反省している毎日である。着任早々、私は局内定期異動の辞令交付を行った。昇任者を始めとして全員、精かな顔付で礼式通りに敬礼し辞令書を受取る姿は、きびきびとしてさすがは精鋭揃いだと感心させられたことであった。

こんな言葉をふと思い出した。『組織（軍隊）は規律である。規律は敬礼によって成り立つ』これは明治7年、台湾遠征のとき、寄せ集めで急ごしらえの軍隊を率いた谷干城が、船上の無りょうをかこって、酒を食い上官に敬礼をしなかった部下を厳しくたしなめた言葉であった。

「制服と礼儀」

或るむし暑い一日、ワイシャツ姿で執務している若い職員に急用を頼むべく、私の所に来よう手招いたところ、当職員はそれを確認しているにもかかわらず反対方向に走っていくではないか。あっけにとられて見ていると、程なく合点がいった次第というのは、何とこの司令補は自分のロッカーから制服の上衣をきちんと着用してから私の前に立った。この間約30秒。瞬時といえは瞬時だが待つ身にとっては随分と長く感じるものである。そこで取り決めを行なった。礼儀は勿論必要だが身内の打ち合わせ程度のことならむしろ、拙速を尊ぶ方がより合理的ではないかと。以降私に呼ばれた時はそのままの姿で應對して貰うことにしている。

「申告」

私の消防局には申告制度(?)がある。旧軍隊にはあったと聞いているが、現在の警察や自衛隊にもあるのだろうか。典型的な例は辞令交付式を行う時、荘重な雰囲気の中で辞令を渡して行く。全部終わった所で進行係が号令をかけ、ここで一人ひとりの「申告」が始まる。「消防司令〇〇は4月1日付けをもって、中央消防署予防課一係長に任命。」最後の言葉を正しくは「任命されました。」と言うところだが大勢だから省略しているのである。

この式は、きびきびした点で私が最も感心しているものの一つで、一般部局での不統一で気の抜けた様子とは全く異質のもので、私にとっては正に清れつ感を覚える一瞬でもある。

或る日私の部屋に入ってきた数人の部下からいきなり不動〔基本〕の姿勢で申告を受ける破目になった。いわく「消防司令〇〇ほか二名は昭和63年4月25日から28日までの4日間、救急事情調査のため〇〇市並びに〇〇市に出張を命ぜられ只今から出発いたします。以上申告いたします。」気がついた時、申告を受けた私はワイシャツ姿で椅子に座ったままであった。